

令和元年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492601503	事業の開始年月日	令和1年9月1日
		指定年月日	
法人名	株式会社日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語さがみ西		
所在地	( 252-0254 ) 神奈川県相模原市中央区下九沢987-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和2年1月16日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

未経験者の雇用や指導を行っています。(介助のやり方や、入居者様への対応、ご家族への対応等の指導)入居者様の状態変化を管理者・ナース・往診医の連携体制を持ち速やかに対応出来るようオンコール体制を設けています。その都度ご家族への報告を行い、その入居者様に合った支援を行える様、職員との会議を行い主治医やご家族へ対応の報告を行っています。ケアプランに関してはご家族の意見も反映し作成しています。細かな心配事等も聞き取り次のケアプランに反映させ説明を行います。なので遠方や多忙で時間の取れないご家族にはお電話にて説明し、来所可能な家族へは対面でのご説明を行っております。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年2月18日	評価機関 評価決定日	令和2年5月27日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR相模線「南橋本」駅から徒歩16分ほどの幹線道路やショッピングセンターに近い住宅街地にあります。木造2階建て、ベージュ色の外壁で、明るい雰囲気を持ったグループホームです。昨年9月に現在の法人の運営に代わっています。

#### <優れている点>

新しい法人の理念や基準に従って、運営していこうと、管理者は職員の育成と利用者へのサービスの改善に取り組んでいます。特に、利用者の状況変化に速やかに対応できるよう、管理者・主治医・看護師と連携し、オンコール体制を築いています。利用者に合った支援を行うため、職員と会議を開き、主治医や家族へ対応の報告を行っています。

#### <工夫点>

食事には、利用者の希望のメニューもどんどん取り入れています。基本は米飯中心の定食で、たまに麺類ですが、誕生日会や雛祭りなどにはカレーライスやパン・菓子パン、ビスケットなどを、近隣のスーパーマーケットで購入し、職員と一緒に調理したりして、おやつレクリエーションなどを行い、楽しめるよう工夫しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語さがみ西
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	9月から法人が変更になった為、まだ事業所の理念は作ってはいないが、職員の働きやすい職場環境を作る為に、相談しやすい環境作りや面談を行っている。その中で今後の会議で理念を作成し実践に繋げようとしています。	管理者と職員は、新法人の理念の下、利用者へのサービスを実践しようと努めています。事業所独自の理念は早急に決める予定で、現在作成中です。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近くのスーパーと一緒に買い物に行ったり、散歩やお祭りに参加をしています。	地域の自治会である、振興会々長、副会長が運営推進会議のメンバーになっています。利用者は振興会の花見に出かけたり、散歩を兼ねて近くのショッピングセンターや団地内にあるスーパーマーケットへ買い物に行ったりしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	振興会等に参加し、現状の報告や他施設との情報交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議が9月から行えていません。今後きちんと行える様体制を整えます。	法人変更に伴い、しばらくの間開催されていませんでしたが、近々開催予定で準備を進めています。今までの参加者は、振興会々長、副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族です。また、年1回、市関係者の参加を得ています。	新しい会議で、メンバーに、今後の運営方針や新しい事業所理念、実施事項などを説明することも期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	担当者との連絡や後見人にはこまめに連絡し状況お伝えしています。面会に来られる時には細かな部分もお話し出来る様事前にお時間を取って頂き現在のご様子等を説明しています。	市のグループホーム連絡会に参加しています。市とは介護保険課、生活支援課、高齢政策課と常時、連絡、報告などの情報交換をしています。年1回、ケースワーカーの来訪があり、事業所の状況を説明しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	大元の玄関のみは機械の為ロックがかかっていますが、それ以外の出入り口（喫煙所は除く）は施錠をしておまません。	法人のマニュアルに従い、禁止にあたる具体的な行為を行わないよう、職員に研修を行っています。玄関は電子錠で施錠していますが、非常時には開くようセットされています。玄関からホールへはいるドアには施錠していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議等で言葉使いや対応の仕方など虐待行為に見受けられそうな対応時は管理者の方から再度介助のやり方を指導しています。あと法人内での研修も参加するように促しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護や後見人制度の研修については、今年度はまだ開催しておりません。しかし、後見人制度を利用されているご入居者がいらっしゃる事で制度の理解は多少なりともあると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結・解約はすべて管理者の方で説明を行い、ご家族にきちんと理解していただいた上でサインを頂いています。その時や、ご家族が聞きたい事があった際はその場で受け答えや電話が来た際は折り返し理解・納得を図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの要望等があった際はその都度職員へ報告し、対応を話し合い入居者様の体調を考慮しながら支援を行う様にしています。	家族からの要望や意見は、推進会議出席時、来訪時、イベント参加時などで聞き、その都度、管理者と職員で話し合い、対応しています。利用者とは日頃の支援の中で、運営に対する意見、希望を聞いています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見はその都度聞き、対応策や上司への相談や報告を行い話し合いの場を設ける様にしています。	職員と管理者との間に連絡ノートがあり、情報交換、意見交換を行っています。職員会議を2ヶ月に1回開いています。1、2階別々の引継ぎのカンファレンスがあり、管理者は意見を聞いています。	職員会議は現在2～3ヶ月に1回となっています。今後、開催頻度を上げることも期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談や勤務の同行を行い、改善点や目標を持てる様話し合いの場を設けています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	業務に同行し、入居者への対応や介助方法等、指導し実践し再度改善点などがあればその都度見直しを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	勉強会を作る時間を設けて頂いていますが、人員不足で参加できていないです。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	業務優先になりがちですが、入居者優先でご本人の要望などに耳を傾け、安心してもらえる生活を送って頂ける様関係作りを行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族には電話や、来所頂いた時にお時間をもらい、現在のご様子や体調面などをお伝えしその中でご家族が心配されていることや、不安に思っている事をお聞きし会議やケアプランに反映するようにしています。その際ご家族に口頭で説明しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前にアセスメントを取りその方に何が必要か？家族の不安の部分をお聞きし入居した際なんの支援が必要になるのか、何が出来るのかを見極めその方に合ったサービスを提供出来る様にしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員を基本的にフロア固定とし、馴染みの顔がいつもいる環境を整えており、ご入居者と暮らす体制は出来ている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族来所時やケアプラン説明時にご家族のご意向や不安をお聞きし、主治医との面談や今後のケアについて話合う時間を設け入居者様とご家族が笑顔で過ごせる環境作りをしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご近所の方や親族等面会に来て頂ける様にご家族に説明をしています。ご家族が来所した時は近くのフードコートでお茶したり散歩等をお願いしています。	衣類など身の回り品の交換のため、家族に来訪を依頼しています。来訪時には近くのフードコートでの湯茶や散歩など、また、馴染みの場所に出かけることもあります。身元が明確なら、昔の踊り仲間などの来訪時に場所を提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	テーブルごとや皆様一緒にレクリエーションを行う時間を設けています。孤立しないよう職員がまめに話しかけたり、席を変更し他者との交流が出来る様支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後もその後のご様子を聴いたり、相談や支援を行っています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	必ず本人に問いかけ現在の暮らしの状況等お聞きしています。返答がうまくできない方には職員と相談しその方が生活しやすい様ケアをしています。	職員は、利用者に、現在の暮らしの状況などを問いかけています。利用者にとっては、自分で考え、自分で発言するというリハビリも兼ねています。返答に困る人は、行動や仕草から思いや意向を把握し、本人の生活しやすいケアに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居時に関わって頂いた方（ご家族・ケアマネ・ケースワーカー・ソーシャルワーカー等）からの聞き取りをしていますので、ある程度は把握できていると思います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご入居者一人ひとりの個別記録が有り、バイタルや食事量・排泄等まとめているので、日内変化にも対応出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングをする際フロア職員から集計を取り、次の課題・改善点を意見交換し、ご家族には前回からの変化等お伝えしご家族からの意見も取り入れたうえでケアプランを作成しご説明を行っております。	介護計画作成担当者は6ヶ月ごとにモニタリングをしています。ケアプランを作成する際にフロア職員から集計を取り、課題・改善点の意見交換をしています。家族には前回からの変化などを伝え、意見を聞いたうえでケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録用紙にすべて書き込みを行っている。そこから問題点を抽出しケア手法やプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々の体調や気持ち等を考慮しながら、その時のベターなケアを提供するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の自治会、振興会に加盟し会合には出来る限り参加をしている。また、近隣の幼稚園と協力をし、互いに行き来している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月2回の往診と週2回の看護師による健康管理を行っています。その日以外でも緊急時等にオンコール体制を持ち主治医の指示に従い行動をしています。その際ご家族への報告やその後の対応、主治医との話し合いの場を設けケアにあたるようにしています。	事業所の主治医・看護師による月2回の往診・健康管理と、週1回の歯科医による診察を行っています。また、緊急時などのオンコール体制もあり、主治医の指示に従い、対応しています。入居前からの歯科やメンタルクリニックを継続して受診している利用者もいます。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師が往診で得た情報の発信を行い、ケアのポイントを介護職員へ伝えている。また、介護職員も気になる点を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院時看護サマリー等を提出し、退院時はカンファレンスにも参加をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に入った際はご家族・往診医・管理者で話し合いの場を設けその方に適した方法で対応しています。事業所での出来る部分と出来ない部分を説明しご家族の了承を得た上で主治医ともこまめに情報交換を行い支援を行うようにしています。	入居の際に「重度化及び看取り介護についての同意書」を説明し、同意を得ています。また重度化や終末期の段階に入った際は、事業所で出来る部分と出来ない部分を説明し、家族の了承を得た上で、主治医と情報交換を行い、支援を行うようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生マニュアルをもとに、行動するように入社時等の研修で学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策としては、災害時前に備蓄倉庫から非常食等を持ち出し事前の判断をして行動を取るようにしています。避難訓練の際は消防から指示された場所への避難誘導をするようにしています。	消防計画を提出し、年2回消防訓練を行っています。非常時備蓄品は飲料水3日分の他、米類などの非常食、法人で定めた備品を用意しています。	職員が少ない夜間の避難対応では難しい状況になることを踏まえ、近隣住民の協力など、相互協力体制の構築検討も期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとり性格も違うため、その方に適したタイミングで声かけを行っています。	職員は、利用者おのおのが自分のプライドを持っている事を理解しています。職員は家庭的な環境の下で入居者の話に耳を傾け、さりげない支援を心がけています。またプライドを傷つけることの無いよう、プライバシーの確保に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご入居者への質問を答え易い言い回しでお聞きする等の聞き方に気を付けて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	どうしても職員の都合で動きがちだが、ご入居者の希望を優先する様に気を付けて行動している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	モーニングケア時に職員が選ぶのではなく、選んでいただく様に会話を心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事メニューを読みあげ食事中でも「おいしいね」と声かけを行うようにしています。食事の準備は出来る方が少ないが、食器拭きやテーブル拭きをお願いすると「いいよ」と快く行ってくださいます。	食事メニューを読み上げ、食事中も「美味しいね」と声かけを行っています。食事の後に食器やテーブル拭きを依頼すると快く引き受けてくれる人もいます。誕生日会や雛祭りではオヤツ作りをし、食事が楽しくなるよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個人記録に食事摂取量、水分量の記入欄があり職員が確認出来るので、少ないご入居者には声かけ等の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを実施している。また、希望者は訪問歯科の往診を受ける事が出来る。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	身体の硬直している方以外は二人介助で出来る方はトイレ誘導し排泄を促しています。つかまり立ちが少しでも出来る方は声かけししっかりつかまっている事を確認したうえで排泄介助を行っています。	歩ける利用者はトイレへ誘導し、排泄を促しています。また車いすの人もつかまり立ちが出来れば声かけし、しっかりつかまっていることを確認して排泄介助を行っています。状況を「生活記録」に記載し、各利用者の排泄パターンの把握に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分チェックや口腔体操、体を使った体操等を行い自然な排便を促しているが、分泌がちな方には往診医から薬等の指示がある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	浴室・脱衣所を温め、寒くないようにセッティングします。入浴前に入浴の事をお伝えし、今日は入浴出来そうか、何番目に入るかお聞きし入浴の順番等を聞き対応しています。	週2回の入浴を基本とし、入浴時には浴室・脱衣所を温め、寒くないようにセッティングしています。その日に入浴したいか、何番目に入浴するかを聞き、対応しています。1階には機械浴槽があり、1階2階の車いすの利用者も快適に入浴できるようになっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中のほど良い運動と、お昼寝等ご入居者に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルに薬情を入れていて、薬の種類等確認出来る様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来る方には、食器やテーブルを拭いていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日や気温によって散歩や買い物に行き、おやつを購入したり、ご家族や後見人の方には散歩をお願いしています。入居者様から提案があった場合はご家族に連絡し対応して頂けるか確認をしています。	天気の良い日は散歩や買い物に出かけています。特に家族や後見人の方に散歩を依頼しています。利用者から要望があった場合は家族に連絡し、対応してもらえるかどうか確認しています。また隣接団地の夏祭りなどへも出かけています。	日常の生活にさらに潤いを持たせるため、市役所通りや、あじさい通り、北公園など、季節の花見、散策など、車に分乗して足を延ばした外出の計画も期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金に関しては、法人の決まり事でお預かりしておりません。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や葉書は、届いたものはご本人に渡しているが、手紙を書く支援はしていない。電話はお繋ぎすることは出来る。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中はカーテンを開け、外の景色が見れ、室内の温度は入居者様に意見を聞き設定しています。掃除機をかける際や居室に入る際は必ず声を掛け了承を得てから入室するようにしています。室内でも季節感が味わえる様に壁に装飾をしたりと工夫しています。	食堂兼機能訓練室にもなる居間は5つの居室に囲まれ、カウンター付きキッチン、トイレ、玄関ホールにつながっており、便利で居心地よく過ごせる空間になっています。冬場は加湿器を置き、湿度維持を行っています。浴室も広く入りやすくなっています。	イベントの際の写真、利用者の作品など、居間や廊下の壁面を飾り、生活を更に楽しめる空間づくりも期待されます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご自由に居室へ行く事も可能であり、ご入居者の気持ちを大事にしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前にご自宅でなじみの物がないか確認しお持ちいただいています。買いなおす場合は一緒に買いに行ける方は職員と一緒に買い物へ行き好みの物を選んで頂き購入しています。入居者様がこれだけは持っていきたいと仰った物に関しては尊重しご家族と相談したうえお持ちいただく場合があります。	居室は畳6帖以上あり、入口は引き戸で段差はありません。天井までの大きなクローゼットがあり、タンスなども収納しています。テレビ、机、タンス、写真類など、利用者の馴染みの品々があります。居室窓は安全のため10cmだけ開くようになっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニットの扉の鍵はかかっておらず、出来る限り自由に動ける環境は整っている。			

事業所名	花物語さがみ西
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	9月から法人が変更になった為、まだ事業所の理念は作ってはいないが、職員の働きやすい職場環境を作る為に、相談しやすい環境作りや面談を行っている。その中で今後の会議で理念を作成し実践に繋げようとしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近くのスーパーと一緒に買い物に行ったり、散歩やお祭りに参加をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	振興会等に参加し、現状の報告や他施設との情報交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議が9月から行えていません。今後きちんと行える様体制を整えます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	担当者との連絡や後見人にはこまめに連絡し状況お伝えしています。面会に来られる時には細かな部分もお話し出来る様事前にお時間を取って頂き現在のご様子等を説明しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	大元の玄関のみは機械の為ロックがかかってしまいますが、それ以外の出入り口（喫煙所は除く）は施錠をしておません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議等で言葉使いや対応の仕方など虐待行為に見受けられそうな対応時は管理者の方から再度介助のやり方を指導しています。あと法人内での研修も参加するよう促しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護や後見人制度の研修については、今年度はまだ開催しておりません。しかし、後見人制度を利用されているご入居者がいらっしゃる事で制度の理解は多少なりともあると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結・解約はすべて管理者の方で説明を行い、ご家族にきちんと理解していただいた上でサインを頂いています。その時や、ご家族が聞きたい事があった際はその場で受け答えや電話が来た際は折り返し理解・納得を図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの要望等があった際はその都度職員へ報告し、対応を話し合い入居者様の体調を考慮しながら支援を行う様にしています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見はその都度聞き、対応策や上司への相談や報告を行い話し合いの場を設ける様にしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談や勤務の同行を行い、改善点や目標を持てる様話し合いの場を設けています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	業務に同行し、入居者への対応や介助方法等、指導し実践し再度改善点などがあればその都度見直しを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	勉強会を作る時間を設けて頂いていますが、人員不足で参加できていないです。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	業務優先になりがちですが、入居者優先でご本人の要望などに耳を傾け、安心してもらえる生活を送って頂ける様関係作りを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族には電話や、来所頂いた時にお時間をもらい、現在のご様子や体調面などをお伝えしその中でご家族が心配されている事や、不安に思っている事をお聞きし会議やケアプランに反映するようにしています。その際ご家族に口頭で説明しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前にアセスメントを取りその方に何が必要か？家族の不安の部分をお聞きし入居した際なんの支援が必要になるのか、何が出来るのかを見極めその方に合ったサービスを提供出来る様にしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員を基本的にフロア固定とし、馴染みの顔がいつもいる環境を整えており、ご入居者と暮らす体制は出来ている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族来所時やケアプラン説明時にご家族のご意向や不安をお聞きし、主治医との面談や今後のケアについて話合う時間を設け入居者様とご家族が笑顔で過ごせる環境作りをしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご近所の方や親族等面会に来て頂ける様にご家族に説明をしています。ご家族が来所した時は近くのフードコートでお茶したり散歩等をお願いしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	テーブルごとや皆様一緒にレクリエーションを行う時間を設けています。孤立しないよう職員がまめに話しかけたり、席を変更し他者との交流が出来る様支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後もその後のご様子を聴いたり、相談や支援を行っています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	必ず本人に問いかけ現在の暮らしの状況等お聞きしています。返答がうまくできない方には職員と相談しその方が生活しやすい様ケアをしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居時に関わって頂いた方（ご家族・ケアマネ・ケースワーカー・ソーシャルワーカー等）からの聞き取りをしていますので、ある程度は把握できていると思います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご入居者一人ひとりの個別記録が有り、バイタルや食事量・排泄等まとめているので、日内変化にも対応出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングをする際フロア職員から集計を取り、次の課題・改善点を意見交換し、ご家族には前回からの変化等お伝えしご家族からの意見も取り入れたうえでケアプランを作成しご説明を行っております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録用紙にすべて書き込みを行っている。そこから問題点を抽出しケア手法やプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々の体調や気持ち等を考慮しながら、その時のベターなケアを提供するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の自治会、振興会に加盟し会合には出来る限り参加をしている。また、近隣の幼稚園と協力をし、互いに行き来している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月2回の往診と週2回の看護師による健康管理を行っています。その日以外でも緊急時等にオンコール体制を持ち主治医の指示に従い行動をしています。その際ご家族への報告やその後の対応、主治医との話し合いの場を設けケアにあたるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師が往診で得た情報の発信を行い、ケアのポイントを介護職員へ伝えている。また、介護職員も気になる点を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院時看護サマリー等を提出し、退院時はカンファレンスにも参加をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に入った際はご家族・往診医・管理者で話し合いの場を設けその方に適した方法で対応しています。事業所での出来る部分と出来ない部分を説明しご家族の了承を得た上で主治医ともこまめに情報交換を行い支援を行うようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生マニュアルをもとに、行動するように入社時等の研修で学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策としては、災害時前に備蓄倉庫から非常食等を持ち出し事前の判断をして行動を取るようになっています。避難訓練の際は消防から指示された場所への避難誘導をするようになっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとり性格も違うため、その方に適したタイミングで声かけを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご入居者への質問を答え易い言い回しでお聞きする等の聞き方に気を付けて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	どうしても職員の都合で動きがちだが、ご入居者の希望を優先する様に気を付けて行動している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	モーニングケア時に職員が選ぶのではなく、選んでいただく様に会話を心掛けています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事メニューを読みあげ食事中でも「おいしいね」と声かけを行うようにしています。食事の準備は出来る方が少ないが、食器拭きやテーブル拭きをお願いすると「いいよ」と快く行ってくださいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個人記録に食事摂取量、水分量の記入欄があり職員が確認出来るので、少ないご入居者には声かけ等の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを実施している。また、希望者は訪問歯科の往診を受ける事が出来る。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	身体の硬直している方以外は二人介助で出来る方はトイレ誘導し排泄を促しています。つかまり立ちが少しでも出来る方は声かけししっかりつかまっている事を確認したうえで排泄介助を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分チェックや口腔体操、体を使った体操等を行い自然な排便を促しているが、分泌がちな方には往診医から薬等の指示がある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	浴室・脱衣所を温め、寒くないようにセッティングします。入浴前に入浴の事をお伝えし、今日は入浴出来そうか、何番目に入るかお聞きし入浴の順番等を聞き対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中のほど良い運動と、お昼寝等ご入居者に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルに薬情を入れていて、薬の種類等確認出来る様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来る方には、食器やテーブルを拭いていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日や気温によって散歩や買い物に行き、おやつを購入したり、ご家族や後見人の方には散歩をお願いしています。入居者様から提案があった場合はご家族に連絡し対応して頂けるか確認をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金に関しては、法人の決まり事でお預かりしておりません。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や葉書は、届いたものはご本人に渡ししているが、手紙を書く支援はしていない。電話はお繋ぎすることは出来る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中はカーテンを開け、外の景色が見れ、室内の温度は入居者様に意見を聞き設定しています。掃除機をかける際や居室に入る際は必ず声を掛け了承を得てから入室するようにしています。室内でも季節感が味わえる様に壁に装飾をしたりと工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご自由に居室へ行く事も可能であり、ご入居者の気持ちを大事にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前にご自宅でなじみの物がないか確認しお持ちいただいています。買いなおす場合は一緒に買いに行ける方は職員と一緒に買い物へ行き好みの物を選んで頂き購入しています。入居者様がこれだけは持っていきたいと仰った物に関しては尊重しご家族と相談したうえお持ちいただく場合があります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニットの扉の鍵はかかっておらず、出来る限り自由に動ける環境は整っている。		